

総合リハビリテーションセンターにおける各部門の連携状況

	具体的な連携内容	実績
相談部門と病院部門	●病院の常勤医師が更生相談の判定医を兼ねている。このことで、更生相談の判定医の安定的な確保と質の高い更生相談を維持できる。	更生相談判定医を兼ねているリハ常勤医 …… 4人
	●病院の常勤医師が相談部門の手帳判定に係る審査(程度審査会)を兼ねることで、程度審査会の安定的な運営が維持できる。	程度審査会委員を兼ねているリハ常勤医 …… 4人
	●病院での補装具外来と更生相談を一か所で提供できる。また、病院の診察医と更生相談の判定医が同一人であることから、補装具の更新や新たな補装具が必要な場合などに、迅速に更生相談の判定に結びつけることができる。	平成30年度 補装具外来 53件 / 更生 相談件数 390件
	●高次脳機能障害者支援センターへの相談から病院への利用に円滑に結びつけることができる。	平成30年度 高次脳専門外来初診件数 …… 85件
病院部門と施設部門	●病院を退院し、その後施設を利用する障害者について、病院から該当者のデータを提供することにより、連続した効率的なりハビリテーションサービスを受けることができる。	病院から施設への利用者 平成30年度 …… 8人 令和元年度5月末まで …… 3人
	●施設を利用している障害者が、補装具外来をはじめ病院での診察を移動なしに容易に受けることができる。また補装具外来を受診する場合、本人の状態を把握している施設の理学療法士が診察に立ち会うことにより、より本人に相応しい補装具の処方を受けることができる。	施設利用者の補装具外来件数 平成30年度 …… 27件 令和元年度5月末まで …… 8件
相談部門と施設部門	●施設を利用している障害者が、補装具などの更生相談を受けする場合、本人の状態を把握している施設の理学療法士が相談に立ち会うことにより、より本人に適合した補装具の判定を受けることができる。	施設利用者の更生相談 平成30年度 …… 26人 令和元年度5月末まで …… 2人
	●高次脳機能障害者支援センターへの相談から、施設の生活訓練(高次脳機能障害者対象)の利用に円滑に結びつけることができる。	平成30年度 …… 23人 令和元年度5月末まで …… 1人
三部門共通	●一か所(当センター)で市町村、福祉事業所、病院向けに相談、医療、施設に関する専門研修を実施することができる。障害者支援に関する人材育成、情報提供の拠点的役割を果たすことができる。	平成30年度センター主催研修 ……13コース 延べ17日間 受講者延べ963人